

令和4年度 事業報告書

I	法人総括	1
II	介護保険事業	
1	特別養護老人ホームわがの里	6
2	わがの里デイサービスセンター	15
3	わがの里在宅介護支援センター	19
4	グループホームわがの里	23
III	わがの里保育園	25

社会福祉法人 和江会

令和4年度社会福祉法人和江会事業報告

I 法人総括

1 事業概要

令和4年度は、当法人の第3次中長期活動計画（令和3～7年度）の2年度目にあたり、これに基づく当年度事業計画の実施に取り組みました。しかし、新型コロナウイルス感染症の継続によって、事業実施に多大な影響を受け、計画どおりの事業実施には至らない結果となりました。

特に、県内及び中部保健所管内での感染者数が大きく拡大した中、当特別養護老人ホーム及び保育園において感染クラスターが発生し、短期入所受入れの一時中止や、保育園該当クラスの登園自粛等を要請せざるを得ない事態となりました。

この状況に対し、保健所等関係機関の指導に従い、感染対策を徹底するとともに、感染した職員が出勤できない期間については、勤務体制変更や超過勤務、他部署からの応援体制を講じ、法人全体で対応しました。

その他、地域交流事業、保育園世代間交流事業は、前年度に続き中止としましたが、施設内での余暇活動や、園内の行事は計画に沿って実施できました。また、面会等を制限する中で、入所者家族、保護者に対する情報提供について、入所者の写真を添付するなど、きめ細かに行い、状況が分かりやすいよう努めました。

こうした中、令和4年度の経営状況は、事業活動計算書決算額が、介護保険事業で4年連続でのマイナスとなり、保育園事業ではプラスとなりましたが、介護保険事業のマイナス額増加により、法人全体で、前年度プラスからマイナスとなりました。

介護保険事業のマイナスは、在宅介護支援センター事業でプラスとなったものの、特別養護老人ホーム事業でのクラスターに伴う短期入所の一時中止や、デイサービス事業で利用率がさらに低下したことでマイナスとなったことが要因であります。このうち、デイサービス事業については、利用希望動向に応じた体制への見直しをおこない、効率的な運営を図っていくこととしました。

保育園事業については、定員140人に対し月平均146人の受入れで、利用率が前年度を若干下回りましたが、市の委託費算定における加算項目追加により委託費収入が前年度より増加したとともに、人件費の削減もあり、前年度より大きいプラスとなりました。なお、人件費の減は、途中退職者による欠員によるものであり、正職員での補充が難しかったため、臨時職員の採用等で必要な保育を行えるようサービス維持に努めました。

2 各サービスの利用状況

- ① 特別養護老人ホーム事業は、長期利用については、退所者が17人（前年度10人）で、入所待機者との速やかな調整を図り、利用率は目標通りの98%（前年度99%）

となったものの、施設内でのクラスターの発生により、一部で新規入所の時期を早めることができず、前年度より低くなりました。

また、短期利用についても、クラスターによる感染者発生期間に事業を一時中止したことにより目標 95%に対して 73.2%（前年度 99%）となりました。

② デイサービス事業は、定員を 40 名に減員、1 フロアに縮小して、1 日平均利用者 29.5 人を目指し取り組みましたが、23.4 人と前年度実績（27.3 人）を下回りました。死亡や施設入所による利用中止が多く、また、コロナ禍で利用制限を行ったことに加え、利用者自身の利用控え傾向から新規利用も減少し、事業収益が減少しました。

のことから、令和 5 年度に向けて利用者数に見合ったサービス実施日の設定及び職員再配置等の見直しを行うこととしました。

③ 在宅介護支援センター事業については、居宅介護支援（要介護）が 1,461 件で+2 件（前年度 1,459 件）、予防・総合計画（要支援）は 479 件で-6 件（前年度 485 件）となり前年を若干下回りましたが、事業収益は黒字を確保できました。

④ グループホーム事業は、入退所がゼロであったものの、疾病による入院治療期間があったため、利用率が 99.3% となり、目標の 98% を達成できたの、前年度 99.7% をやや下回りました。

⑤ 保育園事業については、140 名の定員に対し平均 146 名を受入れしました。利用率が 104.2%（前年度 105.8%）で前年を若干下回りましたが、事業収益は黒字を確保することができました。

なお、一部のクラスに新型コロナのクラスターが発生しましたが、これに対応しながら、感染対策にさらなる細心の注意を払い、安心・安全の保育提供に努めました。

（各施設サービスの実績）

サービス区分	定員等	年間最大利用者数	目標利用率	実 績	実 績 利用率等	参考 R3 利用率
特養長期入所	50名	18,250 人	98%	17,892人	98.0%	99.0%
特養短期入所	10名	3,650 人	95%	2,673人	73.2%	99.0%
デイサービスセンター	要介護	12,320人	25.0 人/日	5,767人	18.7 人/日	21.2 人/日
	予防・障害		4.5 人/日	1,450人	4.7 人/日	6.1 人/日
	計 40人/日		29.5 人/日	7,217人	23.4 人/日	27.3 人/日
在宅介護支援センター	要介護140件/月	1,680件	120 件/月	1,461件	121.8件/月	121.6 件/月
	予防総合40件/月	480件	28 件/月	479件	40.0件/月	40.4 件/月
	計180件/月	2,160件	148 件/月	1,940件	161.7件/月	162.0 件/月
グループホーム	9名	3,285人	98%	3,264人	99.3%	99.7%
保育園	140名	41,020人	100%	42,759人	104.2%	105.8%

3 人材確保・育成の取組み

介護保険事業における無資格者の研修義務付け対応や、更なる資格取得を目指す意欲ある職員を対象に、職員資格取得支援制度を継続し、養成を図りました。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響で、専門研修や福祉団体が行う研修機会が減少したことから、参加可能なオンライン研修への参加を行いました。

また、職員の退職に対応し、即戦力となる介護福祉士、保育士等の有資格職員を募集しても応募がない状況が継続しており、民間職業紹介事業者の活用も検討しながら、幅広い募集活動を図っていくことにしました。

4 地域交流・地域貢献活動の取組み

前年度まで2年連続で中止してきた育児・介護の相談会、すずカフェや作品展示会などを再開し、家族や地域の方々が交流できる行事を計画していましたが、コロナの感染拡大に伴い、やむを得ず中止としました。

なお、地域清掃活動は、年2回実施し、職員52人が参加してわがの里周辺のゴミ拾い清掃を行いました。

5 計画的な施設整備の推進

35年経過した特養施設、25年となるデイサービス、21年となる保育園の施設・設備の劣化調査による施設改修・機器更新計画に基づき、計画的に修繕等を進めました。

施設・設備整備状況（工事請負100万円以上、業務委託・物品購入等50万円以上）

介護保険拠点区分

施設	月 日	契 約 名	契約金額	契約相手
特養	6月16日 ～24日	エアコン更新工事(3台)	1,746,800円	(株)石川メンテナンスサービス
	8月1日	業務用床洗浄機	604,208円	エーワメデック(株)
	12月6日	ヤマハ除雪機	570,000円	(株)イセキ東北
在介	8月26日	訪問車(ミライース)	1,105,710円	(株)阿部マイカーセンター

保育園拠点区分

施設	月 日	契 約 名	契約金額	契約相手
保育園	8月10日	外壁塗装工事	2,508,000円	(有)ヤエトシ
	5月16日	エアコン更新工事(2台)	533,500円	(株)石川メンテナンスサービス

施 設	月 日	契 約 名	契約金額	契約相手
特養・デイ 保育	2月22日	顔認証型サーマルカメラ(3台)	576,840円	(株)メディケアエコネット

6 役員会等の開催状況

① 理事会

回	開催日		議題等
第1回	6月10日	報告事項 決議事項	① 理事長の職務執行状況の報告について ① 令和3年度社会福祉法人和江会事業報告並びに令和3年度介護保険拠点区分決算及び保育園拠点区分決算について ② 社会福祉法人和江会職員給与規程の一部改正について ③ 社会福祉法人和江会職員の育児・介護休業等に関する規程の一部改正について ④ 令和4年度社会福祉法人和江会定時評議員会の招集について
第2回	12月13日	報告事項 決議事項	① 理事長の職務執行状況の報告について ① 令和4年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分補正予算(第1号)及び保育園拠点区分補正予算(第1号)について ② 社会福祉法人和江会通所介護・総合事業通所サービス運営規程の一部改正について ③ 社会福祉法人和江会職員の育児・介護休業等に関する規程の全部改正について
第3回	3月28日	報告事項 決議事項	① 理事長の職務執行状況報告について ① 社会福祉法人和江会通所介護・総合事業通所サービス運営規程の一部改正について(令和4年12月継続審議) ② 令和5年度社会福祉法人和江会事業計画並びに令和5年度介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について ③ 令和5年度介護保険拠点区分積立金を取り崩すについて ④ 令和4年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分補正予算(第2号)及び保育園拠点区分補正予算(第2号)について ⑤ 施設長の解任について ⑥ 施設長の選任について

② 評議員会

回	開催日	議題等	
第1回	6月24日	報告事項	令和4年度社会福祉法人和江会事業計画並びに令和4年度介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について
		決議事項	令和3年度社会福祉法人和江会事業報告並びに令和3年度介護保険拠点区分決算及び保育園拠点区分決算について

③ 監事会

回	開催日	監査事項
第1回	5月20日	令和3年度第4四半期末現在における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
		令和3年度社会福祉法人和江会事業報告並びに介護保険拠点区分決算及び保育園拠点区分決算について
第2回	7月29日	令和4年度6月30日第1四半期末現在における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
第3回	11月14日	令和4年度9月30日第2四半期末現在における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
第4回	2月2日	令和4年度12月31日第3四半期末現在における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について

④ 役員協議会

回	開催日	協議事項
第1回	5月31日	令和4年度第1回理事会提出議案について
第2回	2月28日	法人の現況報告について

II 介護保険事業

1 特別養護老人ホームわがの里

令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度に引き続き感染防止対策を重点的に実施してきた。職員は外部から施設内に感染症を持ち込まないように心がけ、健康管理に注意しながら勤務を継続し、感染を最小限に防いで入所者の健康を守る日々が続いていたが、10月から1月にかけて施設内でクラスターが発生し、収束するまでにかなりの期間対応に追われた。現在も感染症対策委員会が中心になり、感染対策の周知・徹底を働きかけながら業務を続けている。

令和4年度の利用状況については、長期入所の目標稼働率98%は何とか達成できたが、昨年よりも低くなっている。入院が長引いたことに加え、コロナウイルスクラスターの発生により、新規入所の時期を早めることができなかつたのが要因である。

短期入所の目標は、95%だったが、コロナクラスターの発生により、感染者が発生している間は事業を一時中止したため、稼働率が低下した。実績は73.2%で目標を達成することができなかつた。短期入所利用を再開してからも感染予防対策（入所日の抗原検査の実施、体調管理・検温、利用毎のチェックシートの記入、マスクの着用など）を講じながらの受け入れを現在も継続している。

【利 用 稼 働 率】

入 所 者

満床(50床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月
18,250床	17,885床(98%)	17,892床(98.0%)

短 期 入 所

満床(10床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月	長期空きベットの利用
3,650床	3,467床(95%)	2,673床 (73.2%)	38床

【具体的な取り組み】

① 感染症対策

- ア) 新型コロナウイルス…ワクチン接種
 - ・4回目接種（7～8月）
 - ・5回目接種（12月）
- イ) 肺結核…胸部レントゲン撮影（6月2日～6月30日）
きたかみ駅前内科クリニックへ通院し、入所者49名実施
(肺結核なし・49名、何らかの所見あり・13名)
- ウ) インフルエンザ…インフルエンザワクチン接種（11月下旬）
入所者50名接種（家族の同意書徴収 北上市の補助金あり）
- エ) 斎癱
短期入所者の入所時を中心に日々皮膚の観察、衣類の加熱乾燥を常時行った。
- オ) ノロウイルス等の胃腸炎
嘔吐や下痢の症状が見られた場合、感染症を疑い、吐物・排泄物の処理等に細心の注意を払って対応を行った。
- カ) その他
感染症対策委員会を毎月開催し、法人の各事業所と情報を共有しながら対策を検討し、感染症予防の強化を徹底した。
職員は毎日出勤前の検温・体調確認、常時ガウン・マスク・フェイスシールド着用、こまめな手指消毒、定期的な換気や施設内の消毒を継続して実施した。感染の

可能性がある場合は自宅待機、毎週の抗原検査の実施等、感染症を施設に持ち込まないような対策を徹底したが、10月から1月にかけて入所者・職員共にコロナウイルスを発症してしまった。個室が少なく、4人部屋の対応のため、感染が広がってしまったことも要因にあげられる。

感染者が発生する毎に嘱託医や中部保健所、北上市、県南広域振興局等へ報告し、特にも保健所の指示に従いながら対応にあたった。感染者の健康状態を毎日観察して報告したが、発症してもなかなか入院にはつながらず、施設内で療養する方がほとんどだった。

クラスター発生時は、職員も罹患して出勤できない期間があり、勤務態勢の変更や超勤、他部署の職員の応援を要請しながら対応を続けた。

入所者家族にも不安やご心配をおかけする状況が続いたが、体調についての連絡を頻回に行つた。

施設内での面会中止期間は、こまめに電話で連絡を取り合ったり、入所者と窓越しやオンライン面会ができるように準備した。3月からは時間を制限しながらも対面での面会を再開している。

短期入所利用者へは、利用毎にチェックシートの記入を依頼し、朝の検温
・体調確認、同居家族の体調も確認している。利用日の朝に抗原検査を毎回実施している。

新型コロナウイルス感染症クラスター時の罹患状況

9/30～10/28 (29日間)	11/19～12/17 (29日間)	1/14～1/24 (10日間)
入所者 29名（入院1名） 職 員 17名	入所者 13名（入院2名） 短期利用者 5名（入院3名） 職員 9名	入所者 3名

② 職員の育成、介護力の強化

令和4年度は「そばに寄り添い、楽しく笑顔で、心穏やかな生活を提供します」を目標にして取り組んだ。

業務におわれて笑顔で接する余裕がないときもあったので、今後も前向きな気持ちで仕事に入れるように、朝のミーティング時に目標を確認する言葉かけを行つたり、昼食前や余暇活動で自然に「笑顔」が出るような体操を取り入れるなどの取り組みを継続していく。

令和4年度も従来のマニュアルを職員全員で見直し、新しい手順書を作成した。見直したことにより介助をする上で注意しなければならないことを明確にし、より細かい部分まで修正・更新することができた。手順書の見直しは毎年継続していくことにする。

介護技術向上に向けての専門研修や福祉団体が行う研修等は新型コロナウイルスの感染状況により例年よりは参加できる機会が少なかつたが、オンライン研修などへ参加して時世の流れなどについての情報を収集し技術を学ぶことができた。今後も研修へは積極的に参加しながら、介護力・資質の向上につなげていく。

③ 認知症ケアの強化

認知症ケアについては、認知症リーダー研修に参加した職員を中心に施設内研修を定期的に行つた。担当者会議でも入所者の性格や普段の生活の様子から個別の支援方法を検討している。引き続き、入所者が安心して暮らしていくように取り組んでいく。

④ 余暇活動について

令和4年度の行事等については、感染予防対策を講じながら3密を避けて行うようにしたため、北棟・南棟2グループに分けて小規模に開催することが多かった。

ボランティアの受け入れや保育園児との交流もできない状況ではあったが、その分小規模でも楽しめるようなことを企画して、入所者が日々穏やかに過ごしてもらえる

ように、散歩に連れ出したり、レクリエーション、カラオケ、創作活動への参加を促した。

来年度も通常通りに行事が開催できるかわからないが、入所者個人のやりたいことの希望を調査し、個々に楽しめる企画を検討しながら開催へつなげていくことにする。

<行事・余暇活動の実施状況>

開催月日	行 事	実施場所		内 容
		園内	園外	
4月	花見		○	園駐車場で花見、園庭散策
4/15～5/10	施設園庭散策		○	施設園庭散策 観音様参拝、写真撮影
5月	塗り絵 輪投げ 風船バレー	○		塗り絵(鯉のぼり) 実習生と共にゲーム実施
6月	カラオケ	○		カラオケクラブ(なじみのある曲) 「北上おでんせ」の踊り
6/2	レクリエーション大会	○		シーバレー、玉入れ
7月	七夕飾り作り	○		七夕の短冊・飾り作成
7/7	七夕会	○		短冊紹介、魚釣りゲーム、季節食「北上おでんせ」の曲で踊る
8月	盆踊り 塗り絵	○		「北上おでんせ」の曲で踊る 塗り絵(スイカなど季節の絵)
8/5	夏を楽しむ会	○		アイスを食べて季節感を味わう 金魚すくい
9月	リハビリ体操	○		曲に合わせて体操をする
9/15	敬老会	○		受賞者写真撮影 行事食 サザエさん体操 後出しジャンケンゲーム
10月	作品展示会 制作・鑑賞	○		作品展示物(桜の木)を制作・鑑賞
11月	クリスマスの 飾りづくり	○		花紙で飾りづくり
12月	クリスマツリーの飾 り付け	○		ツリーの飾り付けを行う
12/21・22	クリスマス会	○		歌、おやつ
1/21・22	新年会	○		十二支の由来読み聞かせ 長生き音頭(職員) 行事食 歌
2月	ひな祭りの飾 り作り	○		飾り制作
2/2・3	豆まき会	○		豆まき、季節食
3月	リハビリ体操	○		身体を動かす
3/2・3	ひな祭り会	○		ひな祭りの歌、 季節食、おやつ

*誕生会：毎月第3木曜日

*カラオケクラブ 毎週木・金曜日

⑤ 安全管理体制の強化

入所者の安全確保と事故防止については、リスク担当の職員を配置し、事故・ひやり・ハッとする実際についた場合、その時にいた職員でまず話し合い、迅速に対応した。その後書面による再発防止策を提示し、介護職員に対応策の徹底を毎日伝えた。毎月の会議でも再度検討し、全職員に対応について周知する機会をもうけた。

令和4年度は骨折事故が1件あった。同じような事故が起こらないように意識して取り組み、引き続き入所者が安全に暮らせるように対応していく。

身体拘束は0件継続中。入所者の人権尊重の視点からリスクマネジメント委員会で話し合い、継続して身体拘束はしないように取り組んだ。

入所者・利用者の事故状況								(単位:件)
	骨折	裂傷	皮下出血	転倒	ずり落ち	転落	その他	計
入所者	0	4	5	5	13	0	2	29
短期入所	1	0	0	2	1	0	1	5
計	1	4	5	7	14	0	3	34

「ひやり・ハッ」と」事例の上位		(単位:件)
1.	原因が明らかでない外傷（内出血、すり傷など）	167
2.	原因が明らかでない骨折	1
3.	行動	1
4.	腕時計が乾燥機に入っていた	1

⑥ 施設サービス計画

施設サービス計画書については、入所者や家族が満足できるサービスを目指し取り組んだ。令和4年度も引き続き地域の感染状況に合わせた対応が求められ、ご家族を含めた担当者会議の開催は見合せている。

施設内の関係課共同で行う担当者会議では、各職種の視点から状態と対応の確認を行い、支援の方向性を共通認識で取り組むようにした。また、協力歯科医師、歯科衛生士からの指導事項の申し合せを行い、日々のケアに活かした。

施設サービス計画書の軽微な変更については、個別機能訓練計画書及び栄養ケアマネジメント計画とすりあわせを行い、その時々の状態に応じたケアの方向性を優先した。介護課からの提案事項についても同様に取り扱った。

担当者会議開催回数については、長期入所191件（内新規15件）、短期入所69件（内新規24件）開催している。

担当者会議は新規入所時、要介護度更新時期、概ね6ヶ月毎に開催し、状態変化、看取り期において随時開催した。初回作成サービス計画書は、他事業所施設利用から新規長期入所に切り替わるケースも多く、事前情報を参考に、スムーズな生活移行のため、環境支援と並行した対応が求められた。要介護状態の変更（重度化）や全身状態が低下する入所者（状態変化）も多く、異常の早期発見と重度化予防の視点が不可欠だった。作成した施設サービス計画書は、ガラス越し面会時や来所時に、ケアプラン説明と家族の意向確認を行い、遠方や来所できない家族には郵送や電話などによる報告等を心がけた。

短期入所者のサービス計画書は、居宅支援計画に基づき作成し、施設サービス提供の確認や留意事項などの申し合せ、状態と対応方法の共有を行った。

各居宅介護支援事業所の介護支援専門員へ利用期間中の生活の様子等の報告書を活用し、在宅生活の支援継続、介護者の介護負担軽減の一助を行った。

⑦ 家族との連携及び情報共有

施設サービス計画に係る目標、取り組み内容、生活の様子、健康状態、食事の様子等について、各担当職員が毎月家族へ連絡票を郵送している。また、面会中止期間は生活の状況を写真付きで発送し、家族からは『施設での様子が良く分かる。』との声が寄せられた。

電話等でも入所者家族へ生活の状況やサービス計画の内容、支援方法を説明しながら情報交換を行い、サービス計画や生活の様子をより深く理解していただけるようにした。引き続き、安心してもらえるような取り組みを継続していく。

⑧ 看取りケア

全身状態の変化により嘱託医から「回復の見込みがない」と診断された時は、身元引受人や家族への病状説明の場を設け、家族の意向に沿った対応を行った。

看取り期を迎えたとき、嘱託医の指示を仰ぎながら、きめ細かな対応と緩和ケアに務め、施設で出来る限りの看取り介護を行い、15名の方を看取った。

感染症対策を講じていたため、一般的な面会は中止していたが、看取り期の家族の面会はできるだけ行ってもらうようにした。その際に家族の思いも共有することができたので、日々のケアへ活かすことができた。

看取り後に家族へアンケートを依頼し、家族の率直な意見を記入してもらった。どの家族の方からも感謝の言葉を頂き、今後の職員のやりがいにつなげていくことができたので、このような取り組みは今後も継続していく。

⑨ 入所者の状況・健康管理

- 性別では、男性5名(10%)女性45名(90%)である。
最高齢者は110歳女性、最低齢者は75歳女性となっている。
- 平均要介護度は、4.33である。要介護4、5の利用者割合が93.8%（前年度92%）
また、重度認知症（日常生活に支障をきたすような症状で行動や意志疎通が困難で常に介護が必要な者：Ⅲa以上）は、44名となっている。Ⅲa以上の割合が91.7%（前年度90%）。

入所者の年齢 令和5年3月31日現在 (単位:名)

区分 性別	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100～ 105歳	合計	平均 年齢
男	0	0	1	1	2	1	0	0	5	84.4
女	0	0	1	0	11	19	11	1	43	92.0
合計	0	0	2	1	13	20	11	1	48	91.2
3年度	0	1	0	9	12	19	7	2	50	89.9

入所者の要介護度 令和5年3月31日現在 (単位:名)

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	0	0	3	26	19	48
3年度	0	0	4	31	15	50

認知症高齢者日常生活自立度 令和5年3月31日現在 (単位:名)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
4年度	0	0	1	3	14	10	18	2	48
3年度	0	0	0	5	17	4	21	3	50

令和4年度 入所者の退所・入所状況 (単位:名)

在籍者		新規入所者		入所前の居所			施設退所者		退所時の居所	
男	女	男	女	在宅	老健	施設	男	女	施設	病院
5	45	3	12	9	3	3	3	14	15	2

・施設の入退所は、15名を施設で看取り、2名は長期入院のため退所した。

15名が新規入所した。

◎ 健康管理

- バイタルチェックを行い異常の早期発見と早期対応
 - 介護職員との連携をはかり、異常の早期発見に努め、体調異常時は速やかに嘱託医に報告すると共に家族へ連絡した。
 - 体調不良者は観察事項等を重点的に申し送り、きめ細かな観察・対応を行った。
- 回診及び専門病院受診の介助
 - 入所者が体調不良時、本人や家族の希望を聞き嘱託医の指示を受け協力病院への通院を行った。

- 嘱託医の回診…週1回（火曜日の午後）
 - 《入院延べ人数》 3名（県立中部病院2名、県立胆沢病院1名）
 - 《通院延べ人数》 18名
 - 《訪問看護》 1名（県立中部病院看護師）

カ) 服薬の管理

- 嘱託医、調剤薬局との連携・協力により、入所者の服薬状態に合わせた処方をしてもらう事ができた。
- 誤薬の防止策として、一人一人1回分ずつをセットし、色分け、トレイへの選別など準備の段階から数回の確認作業を励行した。

エ) 褥創予防対策及び褥創処置

- 毎月褥瘡対策委員会を開催し、皮膚の清潔・除圧・栄養など介護職員や栄養士と協力して褥創の予防・処置・対応を行った。
- 褥瘡発症者 長期入所者…4名（2名治癒）
短期入所者…1名（現在は治癒）

オ) 経管栄養

- 経管栄養者は現在1名。栄養注入は、常に観察を行い異常の早期発見に努め、介護職員と連携し適切に提供できた。
- 胃ろうカテーテルの点検を毎日行い、病院で定期的な交換を行った。
- 吸引が必要な方は隨時行い、誤嚥や肺炎予防に努めている。

カ) 口腔ケア

- 入所者の毎食前の義歯装着の確認・食後口腔内の清拭のため歯磨き・うがい・ブラッシングを行い清潔に努めた。義歯は清潔保持のため毎食後に洗浄し保管した。
- 歯科衛生士が定期的（週1回以上）に口腔内を点検し、状況を毎月書面で家族に報告した。
- 経管栄養者の口腔清拭・歯茎のブラッシングを行い清潔保持に努めた。
- 喀痰の吸引を随时行い誤嚥の予防に努めた。
- 入れ歯の不具合などがあったときには、隨時歯科医に通院した。
- 口腔ケアの外部研修会に職員を参加させ、個々にスキルアップできた。

⑩ 個別リハビリ計画の実施及び評価

入所者の重度化に伴い、「常時介護が必要な入所者」の比率が高くなっている。一部介助の入所者も全介助に近い状態である。

個々の有する能力を可能な限り維持し、少しでも向上できるように機能訓練指導員や介護支援専門員、看護師、介護職員等と連携して、日常的な機能訓練を行っている。

昨年度は施設内でコロナウイルスが発症したため、感染対応に伴い訓練を中止することが多かった。収束後は少しづつ訓練を再開しているが、療養期間が長かった入所者は状態がやや低下している状況である。

通常の生活に戻ってからは、棟毎に過ごす生活スタイルにも慣れ、狭いスペースでのリハビリやレク活動ではあるが、楽しんで参加している様子が見られている。今後も現在の能力が維持できるように他職種と連携しながら取り組んでいく。

入所者の日動生活動作の状況 令和5年3月31日現在 (単位:名)

	歩 行	排 泄	食 事	入 浴	着脱衣
自 立	1	0	20	0	0
一部介助	7	17	11	13	14
全介助	40	31	17	35	34
計	48	48	48	48	48

	起 座	起 立	体位変換	車椅子		会話
自 立	11	4	10	7	普 通	30
一部介助	3	15	2	3	会話難有	9
全介助	34	29	36	38	不自由	9
計	48	48	48	48	計	48

機能訓練延べ利用実績

(単位:名)

訓練項目	訓練 内 容	実人数	延べ人数
歩行訓練	独歩、歩行器、手引き、伝い歩き、平行棒	58	3,482
起立訓練	平行棒、トイレ時の起立、ベット車椅子間の起立	28	3,744
座位訓練	椅子上での姿勢保持、車椅子・ベッド上での座位保持	44	8,532
レク活動	集団体操、カラオケ、色塗り、読書、裁縫、制作活動等	239	16,757

⑪ 栄養状況の把握及び安全でおいしい食事の提供

ア) 入所者、利用者の健康及び栄養状況を勘案した食事づくり

- ・ 入所者毎に他職種と協働し、概ね3か月に1回栄養ケア計画の作成・見直しを行った。食事状況(個別表)を毎月見直し、それに基づいた栄養管理と食事づくりを行った。
- ・ 虚弱者、低栄養者は、普段の食事摂取量が少ないため、高カロリー、高栄養で食べやすいものを一品提供するなど、栄養不足にならないよう対応した。
《個別対応・R5.3現在》
- 栄養補助食品提供者…4名
- 食事時間調整者…8名
- 食材別水分粘度対応者(とろみ)…濃いとろみ 10名 薄いとろみ 7名
- 療養食対応(糖尿4名、減塩2名)…4名
- 食材制限者は随時対応(納豆、乳製品、揚げ物、野菜等)
- ・ 北上市在宅高齢者等配食サービス事業で、お弁当作り(夕食分)を週3回行った。

イ) 安全でおいしい食事の提供

- ・ 年間の行事や季節食は、それに合わせた献立を作成し、旬の食材を取り入れて食事面からも雰囲気を味わっていただくよう努めた。
- ・ 衛生管理マニュアルの周知徹底を図り、安全な飲み込みやすい食事の提供に努めた。
- ・ 今年度も、家族、地域の方から野菜、果物、米などの頂き物があり、経費の削減につながった。これからも家族、地域の方との関係を大切にしていきたい。

ウ) 新型コロナウイルス感染クラスター発生時の対応

- ・ 入所者の食器は全て使い捨て食器を使用し、厨房から提供した物は再度厨房に持ち込まないようにした。名前シール等を作成し、円滑に業務が進むよう工夫した。
- ・ 温めて提供する「調理済み食品」を活用した。その際、食材の変更やキャンセルが大量かつ複雑であったが、業者の理解もあり、何度もコンタクトをとりながら行うことができた。
- ・ 栄養が不足しないよう、高栄養補助食品を料理に添加したり、デザートとして提供した。
- ・ 調理員の感染が確認された時は、1日二人体制の時もあった。その際にはデイサービスや配食を休業し、他業者への委託により食事提供は続けることができた。

実施月	入所合計 (1日現在)	入所者リスク変動			栄養ケア 実施合計
		低リスク	中リスク	高リスク	
4月	50	22	27	1	16
5月	49	22	26	1	17
6月	50	25	23	2	17
7月	50	24	24	2	15
8月	49	24	23	2	18
9月	49	24	24	1	17
10月	49	24	22	3	16
11月	48	25	21	2	19
12月	50	25	23	2	15
1月	50	24	24	2	15
2月	48	21	24	3	19
3月	49	20	25	4	16

※リスク判断基準

	低リスク	中リスク	高リスク
体重減少率	3%未満	3~5%	5%以上
BMI	18.5~29.9	18.5%未満	
疾患			褥瘡

⑫ 地域交流・奉仕活動・防災訓練・苦情受付

令和4年度における地域交流実施状況は、新型コロナウイルス感染症の対策により、制限したり、中止することが多かった。

ア) 介護実習生の受け入れ

福祉専門学校等の介護現場実習

期 間	日 数	実 習 团 体 名	受 入 人 数
5/23 ~ 6/3	10日間	北上福祉教育専門学校 (2年生)	1名

イ) 清掃活動

年に4回施設周辺の清掃活動を計画していたが、2回行った。来年度も継続して計画し、活動回数も増やす予定である。

清掃活動

開 催 日	参 加 人 数	容 量 90ℓ袋	内 容
5/25 (水)	26	2	老人ホーム・保育園・グループホーム周辺、佐野公園までの道のりのゴミ拾い
6/20 (月)	26	2	老人ホーム・保育園・グループホーム周辺、佐野公園までの道のりのゴミ拾い

ウ) 防災訓練について

施設防災訓練に関する実施状況は、防災委員会の開催および計画作成、通報訓練、避難訓練等を定期的に行った。

なお、地震を想定しての緊急連絡体制も整えた。

防災訓練等実施状況

月 日	時 間	実 施 内 容
4月26日	14:00	防災対策委員会 防災委員会
4月27日	09:00	消防設備点検
7月25日	14:30	避難訓練、パッケージ消火栓の使用方法確認
7/27・28	9:00	地下タンク点検
11月18日	9:00	消防設備点検

エ) 苦情受付

入所者等の権利侵害の未然防止や、より良い処遇改善がでけて信頼関係が得られるよう、相談・苦情窓口をもうけている。担当者会議や面会時に家族からの要望を聞く機会をもうけた。引き続き家族との連携を密にしていくために相談しやすい環境づくりを整えていく。

来年度は苦情だけでなく、「お客様の声」として意見や要望をあげてもらい、職員の意識向上や処遇改善につなげていくことにする。

令和4年度 苦情件数 (単位:件)

	特養入所	短期入所
援助に関する内容	0	0
その他	0	0

(13) 施設入所申込み待機者の状況

令和4年度の新規入所申し込みは74件で、3月末の待機者数は292名となった。待機者が多数のため、すぐに長期入所ができない方のために、各居宅事業所と連携しながらスムーズに短期入所を利用できるように調整した。利用してもらうことで、介護負担の軽減や本人の生活意欲向上につなげることができた。

介護度別待機者状況 (単位:名)

区分	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	30	31	38	99
女	75	76	42	193
合計	105	107	80	292
3年度	106	103	79	288

※平成27年度から、新規申し込み受付対象が要介護3以上になっている。

居住地別待機者状況 (単位:名)

	在宅等で介護	老人保健施設に入所	グループホームに入所	医療機関に入院(療養型施設含み)	その他	合計
合計	50	78	16	99	49	292
3年度	53	77	15	100	43	288

※その他(特別養護老人ホーム入所中 3名、高齢者専用住宅入所中 11名、短期入所施設へ継続して入所中 30名、小規模多機能施設 5名)

2 わがの里デイサービスセンター

令和4年度は、「感染症対策の強化」「利用者の自立支援・重度化防止」「安心安全」「地域に開かれたデイサービス」を目標に取り組んだ。また、数値目標として、1日平均利用人数29.5人（要介護 25.0人、総合 4.0人、障害者 0.5人以上）を目標として、事業実施した。

新規利用者の積極的な受け入れや、家族からの急な追加利用希望、振替利用等、増加に努めたが、今年度新規利用の受け入れ15名（前年度29名）、体験利用9名（前年度14名）と前年度より低迷した。コロナの影響による利用者自身の利用控えの為か、利用希望依頼が少なかった。結果として、利用者実績は1日平均人数23.4人（前年度27.3人）と前年度より低下となってしまった。原因として、新規依頼の減少のほか、中止利用者（年間30名：うち施設入所18名、死亡者8名等）が新規利用者よりも多く、目標数値に届かなかった。利用者の短期入所の定期利用（約15名）や冬期間のロングショート利用者も増え、デイサービス利用よりも、施設短期入所利用を希望する利用者、家族が増加している傾向であるため、デイサービスの需要が少なくなってきた。

《具体的な取り組み》

① 感染症対策の強化

「新型コロナウイルス感染症対策」…コロナウイルス感染予防の為、職員、利用者とも送迎乗車前、玄関、食事前の消毒を徹底した。そのほかに新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、職員出勤前の体温測定、利用者様利用時朝の体温測定記入、チェックシートの記入継続、ご家族の体調観察協力も促した。この他、施設内の消毒回数の増、アクリル板設置等を行った。特養でコロナウイルスクラスターが発生したため、職員応援の要請があり。デイの職員4名が応援の対応をした。その為、デイでも職員不足となり、利用者の利用日や入浴の回数減のお願いをして営業した。給食課のクラスター発生により昼食の提供できず、岩手給食に変更して提供させていただいた。（約10日間）家庭内感染も増え、家族や利用者様も感染し利用を休まれたり、職員も感染し出勤停止となるなど、少ない職員で営業するなど対応に追われた。その中で、職員は感染防止の危機感を常にもちながら、日々感染防止に取り組んだ結果、デイサービスからの感染やクラスターは発生せずに過ごすことができた。

② 積極的な体づくり・機能の維持向上

- ・個別機能訓練やレク体操に取り組んだ。フロア内の「歩け歩け運動」は職員不足により付き添って歩行訓練する時間がとれず、なかなか取り組むことができなかつた。
- ・口腔機能向上には、積極的に取り組み、利用者の口腔衛生、昼食前の口腔体操、変化の早期発見、家族やケアマネへ報告し改善に繋げた。

③ 安心安全な環境作り

- ・今年度より、1フロアで利用者全員過ごすことになり、利用者の方々が楽しく過ごすことができるよう、利用者の要望を細かく聞きながら、席の配慮、ベットの配置などを行った。
- ・満足度調査のアンケートは配布できなかつた。
- ・常に環境の見直しを行い利用者が安全に過ごすことができるよう検討した。

④ 家族や関係機関との連携

- ・家族からの状態を把握し、職員間で情報を共有しながら、体調や生活機能の変化等、家族や介護支援専門員への報告はその都度実施した。感染防止の為、担当者会議の開催や参加は少なかったが、日々のミーティングでの報告や対応の検討を繰り返し行つた。
- ・毎月、職員会議の中で、対応困難な利用者や新規利用者の支援を検討、周知した。

⑤ 人材の安定化と育成、介護力強化

- ・今年度より、2フロア体制を1フロア体制で行うことにした。始めは利用者も職員も慣れずに困惑したが、業務の見直し、効率化を検討しながら対応した。
- ・介護認定更新者の状態把握、心身変化や対応困難な利用者の支援の見直しや適切な介護の検討を行つた。コロナ感染防止の為、長時間の施設内研修はあまり取り組めず、資料の回覧のみで行うこともあった。
- ・外部研修の参加も感染防止の為、参加はほとんどなく、リモートなどで参加出来る物は参加し、知識や技術の習得を図つた。特に、コロナウイルス感染予防対策の研修、感染症のシミュレーション研修等、施設内での研修を行い、知識・技術の習得に努め、職員の資質向上を図つた。

⑥ 事故防止に努め、安心安全の強化を図ります

- ・「事故・ひやりハッと」を検証し、利用者の方々の安全を守りながら、喜んでもらえるサービス提供を心がけ、必要な介助や支援を行つた。ワンフロアになり、目が届かないところがないように職員を配置するなど対策し、大きな事故なく利用して頂いた。
- ・日々の業務の中で気づいた危険な場面や状況を報告し合い、大きな事故を防止できるように職員間での情報交換を行い、転倒防止や再発防止に努めた。
- ・令和4年度は、事故17件・ひやりハッと5件であった。

「事故状況」 事故…17件

事故内容	転倒転落	外傷出血	送迎	脱園	その他	合計
件 数	2	4	2	1	8	17

「事故事例内容」

送迎車脱輪、衣類間違い、投薬忘れ、脱園、爪切り出血 等

「ひやり・ハッと」 5件 事例内容

送迎車から一人で降りていた、ふらつき、補聴器の付け忘れ 等

⑦ 地域の方々が気軽に来られる開かれたデイサービスを目指す

- ・今年度もコロナ感染防止のため、行事への慰問団体の受け入れは休止、慰問の方々と利用者との交流はできなかった。
- ・地域貢献として、今年度もわがの里職員全体でわがの里周辺のゴミ拾いを計画し、わがの里周辺3コースに別れて地域清掃活動を行つた。

《行事への取り組み》

- ・活気をもち、体を動かしてもらうため、「ミニ運動会」を実施。はちまきをして体を動かし、応援合戦等行い、運動会気分を味わつた。
- ・「敬老会」では例年の慰問団体による余興は中止し、お祝いや日程を縮小して行い、職員による「さんさ踊り」の余興やゲームで盛り上げた。

- 「作品鑑賞会」では、規模を縮小しそれぞれの事業所で実施。利用者の作品をホワイトボードに展示。席に座りながら眺めることができて、一年間の作品や作成している写真をみて楽しんだ。
- その他、読書週間や新年会、季節毎にお楽しみおやつを提供するなど、季節感を味わっていただいた。

行事実施状況

行事名	期 日	時 間	内 容
敬老会	9/15～9/21	14:15～15:00	敬老者表彰／記念品贈呈 職員による余興、クイズ
作品鑑賞会	11/3～11/20	午後	個人作品・共同作品展示 写真展示、
読書週間	11/15～11/20	14:30～15:00	本に親しむ 紙芝居
新年会	1/9～1/14	14:30～15:30	お正月ゲーム、踊り、

《利用登録者の状況》

「表 1」 利用登録の変遷

(単位:名)

区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
男	29	24	22	24	18	16
女	97	101	98	99	82	67
合 計	126	125	120	123	100	88

「表 2」 通所介護利用者数

(単位:名)

区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
介護保険	7,237	7,995	7,651	6,848	6,527	5,767
介護予防	1,597	1,845	2,021	1,812	1,791	1,332
合 計	8,834	9,840	9,672	8,660	8,318	7,099

「表 3」 年齢構成

令和5年3月31日現在

(単位:名)

区分	65歳未満	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上	合 計
男	0	0	0	0	8	1	6	5	0	20
女	0	0	2	0	6	16	25	15	1	65
合 計	0	0	2	0	14	17	31	20	1	85

平均年齢 92.3歳 男性 89.2歳 女性 93.3歳 (障害者3名除き)

「表 4」 要介護度の状況

令和5年3月31日現在

(単位:名)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障害者	合 計
男	1	2	7	6	1	1	0	1	21
女	12	8	21	9	7	7	1	2	67
合 計	13	10	28	15	8	8	1	3	88

「表5」 認知症高齢者の日常生活自立度 令和5年3月31日現在 (単位:名)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
男	1	2	7	6	2	0	2	0	20
女	7	16	8	15	10	3	5	1	65
合計	8	18	15	21	12	3	7	1	85

(身障者3名・除く)

「表6」 令和4年度新規・中止利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用者	0	1	2	0	3	1	2	0	0	0	3	3	15
中止利用者	3	4	4	4	1	1	3	0	2	1	2	5	30

《身体障害者等デイサービス事業》

身体障害者及び知的障害者等の自立促進、生活の改善、身体機能の維持向上等を図ることが出来るよう、食事サービス、創作的活動等の各種サービスの提供に努めた。

コロナで職員不足の際には、利用者に別事業所を利用していただく等、協力していただいた。

利用状況 (単位:名)

区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
登録人数	3	4	3	3	3	3
延利用数	196	245	196	179	119	118

《配食サービス事業》

自宅で一人暮らし、または夫婦暮らしの老人に対し夕食(1食500円)を届け、安否の確認や会話を通じてコミュニケーションを図り、孤独感の軽減に努めた。また、食事提供以外に配食サービス事業が担っている、利用者の身辺状況の把握と関係機関との連携による在宅生活継続のための支援に努めた。令和4年11月に特養給食課でコロナウイルスのクラスター発生と職員不足により、令和4年11月末～令和5年3月まで配食サービスも休止せざるを得なくなつた。北上市にお願いし、市より「宅配クック123」に代替えで委託し、わがの里配食利用者に提供していただいた。

(今年度、新規4名、年間837食の弁当を届けた。)

利用状況 (単位:名)

区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
登録者数	14	14	13	10	9	7
実施日数	154	154	153	155	156	103
利用延数	1,626	1,883	1,925	1,438	1,364	837
平均	10.6	12.2	12.5	10.2	8.7	8.1

※令和4年11月28日～令和5年3月末まで配食サービス休止

3 わがの里在宅介護支援センター

令和4年度は、特定事業所加算要件である、介護支援専門員実務研修実習の受入はなかったが、専修大学北上福祉教育専門学校の介護実習生(2名)を受け入れた。地域包括開催の研修会や各研修会には会場やリモートで参加し、介護支援専門員の資質向上に努めた。又他事業所(JA花巻居宅介護事業所)とのケース検討会は年2回開催した。社会福祉法人としての地域資源となるよう、施設全体の取り組みの介護相談会は新型コロナウイルスの影響で開催出来なかった。

支援困難なケースが増えてきているため、事業所内で随時の相談、地域包括との連携、保険者との情報共有、社会福祉協議会との連携を行い、解決に向けての努力をした。

利用者の契約終了は41名。内容は、在宅にてご逝去される方が4名、病院での逝去16名、有料老人ホームでの逝去2名、介護老人保健施設へ長期入所2名、グループホームへの入所1名、特別養護老人ホームへの入所12名、療養型施設への入院1名、他居宅支援への移行3名だった(表6)。入所については、本人や家族の状況を把握しながら、1人暮らしや介護状況の限界を見極め、施設の情報を伝え、入所申し込みを促し、入所への橋渡しをすることができた。

実績を評価すると、居宅介護支援(要介護)、予防・総合居宅介護支援(要支援)において、共に前年度と同等の件数を得ることができた。具体的には介護計画総数は、居宅介護支援1,461件、前年比2件増、予防・総合居宅介護支援479件、前年比6件減となつた(表2)。前年と比べ件数は若干減となつたが、地域包括支援センターとの連携、地域からの情報、わがの里職員の人脈等で目標の給付管理数は死守することができた。内外研修での介護支援専門員としての質を高めたことや、様々なケースに携わることで成長し、信頼を得ることができた成果だと思われる。

《具体的な取り組み》

① 気軽に相談できる体制作り、必要とするサービスを速やかに提供できる体制作りについて

- ・モニタリング(月1回以上の定期訪問)により状態把握に努め、変化時には早期に対応できた。定期の訪問は、できるだけ電話での情報収集をしながら、短時間での訪問にこころがけ新型コロナウイルス感染防止に努めた。
- ・事業所内での事例検討会を通して、必要なサービスや課題解決の方向性を見つけ対応することができた。
- ・地域包括支援センター企画の研修会には、事例検討会やリモートの体制を整えて参加できた。

② 自立支援および要介護度の維持改善を視点としたケアプランの作成と適切なサービス提供について

- ・アセスメント(課題分析)を通じて、生活ニーズの視点に基づいた、その人らしさを実現できるケアプランを作成することができた。
- ・介護事業所の介護計画を把握し、居宅サービス計画書と突合しているか確認。連携を図り、課題解決、自立支援の向上に努めた。
- ・居住環境を把握し、本人、家族の意向を確認しながら、福祉用具業者や通所サービス(デイサービスやデイケア等)との連携を図り、暮らしやすい環境作りに努めた。
- ・医療サービスとの連携に努め、健康状態の維持向上に努めた。

③ サービスの質を確保するため、適宜の担当者会議を開催、情報および方針を有するための連携強化について

- ・介護認定更新時による担当者会議開催の他、状態変化に合わせた担当者会議を隨時行

い、関係事業所との情報共有と連携で、本人、家族の支援に繋がった。又今年度は新型コロナウイルス拡大防止のため、参加事業所は最小限にし参加できない事業所は照会とし、事前に情報収集をして、短時間で終わるように努めた。

- ④ 地域包括支援センター等との連携による包括的・継続的なケアマネジメントの実施と支援困難事例への速やかな対応について
 - ・困難事例はケアマネ1人で抱え込まず、事業所内での事例検討会、又解決が困難な場合は、包括支援センターへ相談し解決策を探った。
- ⑤ 介護支援専門員としての専門性確保と資質向上について
 - ・地域包括支援センター主催の事例検討会に事例を提出し、全員参加することができた。
 - ・他法人(JA居宅介護事業所)との事例検討会は今年度は2回実施することができた。今後は回数を増やし、他法人との情報共有等の連携を図っていく。
 - ・権利擁護及び成年後見人制度の研修会に参加し、復命研修を行い、必要な情報や知識を得ることができた。
 - ・事業所内での週1回の事例検討会や研修会を実施し(復命研修含む)、担当ケースの進捗状況等を伝え合う、研修会を通して知り得た知識や情報を共有しあつた。
- ⑥ 個人情報の保護と情報の共有に係る調整を行い、緊急な場合であっても適切なマネジメントが実施できる体制の確立について
 - ・個人情報の保護に努めながら、担当ケアマネが不在であっても、緊急な対応ができた。(例:急な短期入所利用や訪問介護利用等)
 - ・緊急な事があっても、連絡の取れる体制に努めた。
- ⑦ 介護報酬改訂に伴う、法令遵守と効率的な事業運営による収支の改善について
 - ・給付管理は月平均(予防・総合含め)160件を上回ることができた(表2)。
 - ・特定事業所集中減算を回避することができた(表5.1)。又特定事業所加算(II)を継続できた。

《利用実績表等》

[表1] 介護度別の給付管理状況

令和5年3月31日現在

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者数	24	12	53	26	16	15	5	151
比率	15.9	7.9	35.2	17.2	10.6	9.9	3.3	100
男性	4	2	17	10	2	4	2	41
女性	20	10	36	16	14	11	3	110

[表2] 月別利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	25	27	28	28	28	27	30	27	27	26	26	23	322
要支援2	12	12	12	13	14	16	12	15	14	13	12	12	157
要介護1	56	55	55	54	53	54	52	56	56	55	53	53	652
要介護2	25	25	24	23	24	23	19	22	24	24	23	26	282
要介護3	25	22	23	24	22	21	18	16	17	16	16	16	236
要介護4	18	17	18	18	18	21	17	18	17	15	17	15	209
要介護5	3	6	6	7	8	9	9	8	7	8	6	5	82
	164	164	166	167	167	171	157	162	162	157	153	150	1940

[表 3] ケース検討会開催状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	46

[表 4] サービス別利用者数(介護サービス)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問介護	21	19	22	22	23	23	19	20	15	18	18	16	236
通所介護	72	72	71	70	70	70	66	65	64	63	63	62	808
通所リハビリ	25	24	26	24	23	25	23	27	23	25	25	23	293
認知症通所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	20	20	22	27	25	28	23	22	20	21	22	23	273
訪問入浴	1	1	2	2	2	2	0	0	1	1	1	1	14
短期(生活)	25	24	23	27	27	26	14	22	7	15	15	24	249
短期(療養)	10	10	9	6	9	10	11	7	5	1	1	5	84
福祉用具貸与	72	68	74	72	72	73	68	73	73	71	71	66	853
訪問リハビリ	4	5	4	5	5	4	4	3	4	5	4	4	51

[表 4-2] サービス別利用者数(介護予防サービス)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防訪問介護	6	6	5	5	5	7	7	7	7	7	7	3	72
総合通所サービス	20	22	21	20	22	23	23	23	22	21	21	21	259
通所リハビリ	8	7	9	9	9	9	8	8	8	7	7	6	95
予防短期入所	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5
訪問リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予防訪問看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予防福祉用具	16	18	17	18	19	21	19	18	18	16	16	13	209

[表 5] 特定事業所位置づけ計画数(和江会介護サービス分)

通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わがの里	52	51	50	49	50	50	48	48	47	48	49	46	588
他事業所	21	20	21	21	20	20	17	17	18	16	14	14	219
比率	71	72	70	70	71	70	74	74	72	75	78	77	73

短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
わがの里	18	16	16	16	18	17	7	16	1	9	14	16	164
他事業所	7	8	8	11	9	9	7	7	10	7	7	8	98
比率	25	24	24	27	27	26	14	23	11	16	21	24	63

[表 6] 利用者の異動状況（要介護者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院													0
施設(特養)	1	3	1		3	1		2			1		12
施設(老健)			1										1
施設(療養)										1			1
グレーブホーム	1												1
転居												1	1
他居宅支援		1	1									1	3
死亡	2	2	0	2	1	3	3	2	2	2	1	2	22
計	4	6	3	2	4	4	3	4	2	3	2	4	41

4 グループホームわがの里

【令和4年度の基本方針】

- (1) 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を」目指す。
- (2) ご家族・地域・職員、関わるすべての方々と協力し、信頼される施設を目指す。
- (3) 日課が入所者の役割・生き甲斐になるよう、自立支援を基本とした計画を作成する。
- (4) 認知症の理解と重度化及び看取りの備えを行い、介護力の強化と人材育成を図る。
- (5) 他事業所と連携し、支援体制の強化を図ることで利用率の維持・向上を目指す。

目標	年間延べ利用者数 3,285 人	利用率 98%	* 定員 9 名
実績	年間延べ利用人数 3,264 人	利用率 99.3% (前年度実績 99.7%)	

* 入退所は 0 名、入院 3 名。(入院 21 日)

令和4年度は、職員やその家族も新型コロナに罹患し、5~7日の出勤停止の影響でシフトのやり繰りが困窮することがあった。こうした状況が繰り返されることで、職員の疲労が蓄積されるほか、サービス提供も縮小を余儀なくされる1年だった。

《具体的な取り組み》

- ① 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を」目指す。
 - ・ 職員一同、基本理念に立ち返りながら日々利用者様のサービス提供を図ってきた。
 - ・ 処遇行事の実施状況については、別添資料【表1】のとおり。
 - ・ 新型コロナの影響で誕生会や施設内行事も一部中止して対応した。また、保育園や地域との交流行事はすべて取りやめとした。ドライブなどできる範囲で行った。
- ② ご家族・地域・職員、関わるすべての方々と協力し、信頼される施設を目指す。
 - ・ 運営推進会議は偶数月にコロナ状況下のため6回書面で開催した。
 - ・ 家族連絡票は毎月15日に各家族に送付した。写真も添付し近況がわかると好評だった。
 - ・ 外出外泊と面会は別添資料【表2】のとおり。コロナ状況下により、外出外泊と直接の面会を制限し、職員から近況報告や、電話でご本人と会話頂く等代替策を行った。
- ③ 日課が入所者の役割・生き甲斐になるよう、自立支援を基本とした計画を作成する。
 - ・ ケアプランは、3グループに分け3か月ごとに見直しを行った。訪問診療、訪問看護の医療からの意見も取り入れてプランを作成している。
 - ・ ご本人の自立を低下させないように、支援を行ってきた。
- ④ 認知症の理解と重度化及び看取りの備えを行い、介護力の強化と人材育成を図る。
 - ・ 入退所の結果、利用者の年齢と介護度は別添資料【表3】【表4】のとおりとなった。経年とともに重度化に備え、引き続き介護に係る体制の整備を図ることとしたい。
 - ・ 令和4年度の外部研修→感染症対策などリモート研修に参加した。
 - ・ 発熱の利用者がいる度に新型コロナに係る検査を実施し、予防のため隔離対応を行ってきた。利用者のコロナ感染はゼロであった。
- ⑤ 他事業所と連携し、支援体制の強化を図ることで利用率の維持・向上を目指す。
 - ・ 訪問診療による往診(月2回)、訪問看護(毎週水曜日)を継続している。
 - ・ 歯科衛生士から月1回口腔ケアに係る指導をいただき対応に務めている。
 - ・ 事故、ヒヤリハットの状況については、別添資料【表5】のとおり。

【その他】

- ・ 令和4年度の外部評価は令和5年1月26日に実施し、3月8日WAM-NETに掲載。

【表1】処遇行事実施状況													
4/1 カラオケ会					10/18 芋の子会								
4/19 花見ドライブ													
4/21 いなり寿司作り					11/5 干し柿作り								
5/1 開園記念行事					11/15 カラオケ会								
5/8 母の日行事					11/16 焼き芋会								
5/13 新緑ドライブ					12/11 誕生会								
6/4 ピクニック					12/25 クリスマス会								
6/19 お菓子作り					12/29 そば打ち								
6/23 ピクニック					12/31 年越し								
7/5 梅干しつくり					1/3 うどんつくり								
7/25 グループホーム夏祭り					1/16 誕生会								
7/26 誕生会					1/23 みずき団子作り								
8/11 スイカ割り													
8/12 お盆供養					2/3 豆まき会								
8/31 花火大会					2/19 誕生会								
9/12 誕生会													
9/19 敬老会					3/3 ひなまつり会								
9/23 おはぎ作り					3/6 誕生会								
					3/19 おはぎ作り								

【表2】外出外泊、面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外出外泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面会	1	0	0	3	1	3	0	0	2	0	1	0	11

【表3】利用者の年齢の状況（令和5年3月31日現在）

	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計	最高98歳
男	0	0	0	0	0	0	最低80歳
女	2	2	4	1	0	9	平均88.8歳
合計	2	2	4	1	0	9	

【表4】利用者の介護度の状況（令和5年3月31日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
男	0	0	0	0	0	0	平均2.22
女	3	3	1	2	0	9	前年度1.67
合計	3	3	1	2	0	9	

【表5】令和4年度の事故、ヒヤリハットの状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒 a	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0	1	0	11
その他 b	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	6
事故a+b	3	2	1	1	1	1	1	2	2	0	2	1	17
転倒 a	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他 b	3	2	1	3	2	3	1	2	3	3	1	0	24
ヒヤリハット c+d	3	2	2	3	2	3	1	2	3	3	1	0	25
合計	6	4	3	4	3	4	2	4	5	3	3	1	42

III 保育事業〔わがの里保育園〕

- 新型コロナウイルス感染症予防対策として園内消毒、検温、手洗いの徹底、熱などの体調不良があるときは素早く保護者に連絡を取り迎えにきてもらうなど対応した。クラススターになったクラスは市からの要請を受け保護者に登園自粛をお願いし蔓延防止に努めた。また、職員が罹患したり濃厚接触者で出勤できない職員も多数いたが、出勤している職員が超過勤務をし体制を崩さぬよう努めた。今後も感染症マニュアルに基づき安全な生活が送れるよう配慮していく。
- 保育所保育指針の改定（平成30年）に伴い2年間にかけて保育目標の見直しを行ってきた。各クラス毎に目標を立案し、目標達成に向け取り組んだ。クラス毎に評価を行い、保育所保育指針に沿いながら新たに保護者、地域、職員に分かりやすい保育目標に設定した。今後も保育の取り巻く環境に応じた内容になるよう見直しをかけていくようにする。

1 保育業務

3歳未満児について、保護者と密に連絡を取り合い一人ひとりの育ちにあった支援を行った。また、養護と教育の一体化した保育を行った。3歳以上児について、子どもたちの思いに寄り添い主体的な活動を行う環境を構成し保育を行った。

[表1] 年間開園日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日 数	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293

[表2] 児童の入所状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
1～2歳児	50	50	50	50	50	50	50	50	49	49	49	49	596
3歳児	27	26	27	27	26	26	26	26	26	26	26	26	315
4～5歳児	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	660
計	147	146	147	147	146	146	146	146	145	145	145	145	1751

[表3] 児童の出席数

	年間在籍合計	年間出席児合計	年間保育日数	月平均保育日数	平均出席数	年間出席率
令和4年度	42,759人	30,775人	293日	24日	105人	71.90%

① 児童の健康管理

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した。換気や手洗い、保育室の清掃及び各場所（手洗い場、トイレ、手の届くところ）の消毒を行った。家庭にも健康観察の徹底、検温を依頼し体調の管理の協力をお願いし感染予防に努めた。
- ・衛生指導を通じて、健康に過ごすことができるよう感染症の予防に努めた。手洗いをはじめ咳エチケット、鼻のかみ方など具体的、継続的に指導を行う。子ども達の実際の様子や、日々の健康観察と合わせて行うことの重要性を感じた。

新型コロナウイルス感染症罹患結果

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
園児	19	0	2	2	27	12	2	17	4	2	0	0	87

健康診断の実施状況と結果

内 容	実施月日	担 当 医	検 診 結 果
内 科	6/7	北上済生会病院	喘息1名 湿疹1名 陰嚢部確認3名 皮膚の乾燥1名
	10/4	〃	喘息2名
眼 科	6/6	藤田眼科医院	アレルギー性結膜炎4名 急性結膜炎1名 右上斜筋1名 内斜視1名
	10/31	〃	内斜視1名 右上斜視1名
歯 科	5/11	畠山歯科クリニック	虫歯あり 12名 (治療完了者も含む) 虫歯の総数42本
	10/26	〃	虫歯あり 16名 (治療完了者も含む) 虫歯の総数39本

② 安全管理

ア) 安全点検

毎日、園舎周りの確認や安全点検をして、園舎内外の不備を見つけて事故防止に努めるようにした。又、すぐに直せない所は応急処置をとって子ども達が触らないように気を付けた。

イ) 安全指導

毎月安全指導を行い、交通安全、信号の見方や遊具の使い方について等知らせることで、子ども達も理解できていた。絵図を使用しながら再確認していきたい。

ウ) 避難訓練

火災や地震に対しての園内訓練の他、水害を想定した避難訓練を実施した。

和賀中部分署消防署員からも通報訓練の手順や消火器の扱い方を指導してもらい毎月の訓練に活かすことができた。

エ) 事故防止

・睡眠時の観察を徹底する。体位の確認（うつ伏せ寝の防止）呼吸や顔色などを観察し睡眠チェック表に記入した。部屋の明るさを保ち、布団など顔にかかるないように点検を行った。

・園内外の環境整備に努め、安全点検を行った。施設の整備点検、危険な場所や物がないか確認し職員間で情報を共有し、安全に過ごせるよう配慮した。尚、破損しているところは報告し整備をした。

・食事中の咀嚼の状況や顔色を確認し誤嚥や窒息の予防に努めた。

③ 栄養管理

- 地元の食材をできるだけ取り入れながら、季節間があり色彩豊かで調和のとれた献立を工夫し、給食が子どもにとって魅力的なものであるよう食事の質の改善と、美味しい給食の提供に努めた。
- 低年齢児は離乳食調査票を用いて家庭での様子を把握して食事や食器具の提供をした。離乳食から幼児食に移行する際には、食品調査（特定原材料について）と同意書を提出してもらい未摂取の食材を保育園で初めて食べることのないよう働きかけた。
- 子ども達が自らの感覚や体験を通して食への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子ども達と調理従事者との関わりを積極的に持つように努めていきたい。
- 年間食育指導計画に基づき、子ども達が畑で育てた野菜を給食に取り入れたり、クッキングやバイキング等を通じて食べ物への興味や関心を持てるよう配慮した。

- ・ 食育集会やクラス巡回を行った。年4回の食育集会では体と食べ物の関係に関心を持ち、食べる意欲へつながるよう媒体を用いて知らせた。
- ・ 食育アレルギーや体調不良の子に対しては個別の対応をした。食物アレルギー対応マニュアルに沿って、医師による生活管理指導表に基づき保護者と面談し、全職員が共通理解した上で除去食品の誤食などの事故防止に努めた。
- ・ 安全で安心できる食事を提供するために、大量調理衛生管理マニュアルに沿って衛生管理を行った。調理従事者の健康状態の確認及び記録を実施した。
- ・ 給与栄養目標量の割合は、対象となる子どもの体格や家庭での栄養摂取状況を把握、評価した上で、1日全体の食事に占める保育所の給食の割合を検討し、目標を設定した。
- ・ 園-R enraku(システム配信)を活用し、保護者に食育の取り組みや、誕生会メニューの内容を知らせた。保育園の食育が、保護者支援につながるよう今後も取り組んでいく。

給食実施の結果摂取量(1日の1人当たり)

区分	未満児		3歳以上児	
	目標	摂取量	目標	摂取量
カロリー	500	498	446	459
蛋白質(g)	19.1	18.3	20.0	19.1
脂肪(g)	13.9	16.5	16.9	17.9

※摂取量3歳以上児の数値が少ないので、米飯を持参しているため。

④ 職員研修状況

今年度、園外研修は28の研修に参加しそのうちオンライン研修は15だった。全国保育士会研修に参加し国の動向を知り得たり質の向上にもつながった。研修で学んだことは、職員間で共有し保育に生かしていくようにした。

⑤ 行事の実施状況

	行事名		行事名
4月	入園お祝い会	12月	保育利用内定面接 クリスマス誕生会
5月	園児健康診断		
6月	園児健康診断		
7月	七夕誕生会 防犯教室	1月	ミズキ飾り 交通安全教室
9月	運動会		
10月	交通安全教室 総合避難訓練 園児健康診断	3月	ひなまつり誕生会 お別れ会 進級お祝い会 卒園式
11月	発表会		
誕生会、避難訓練、安全指導(毎月) ピクニック 6月～10月 英語教室 5月～2月 (10回)		サッカー教室 (2回) 食育集会 (4回) 衛生集会 (3回)	

2 特別保育事業

① 障がい児保育

対象児3名に3名の加配担当を配置した。イーハトーブ養育センターに通所している園児もいるため、イーハトーブ養育センターから訪問してもらい園の様子を見ていたり情報交換にもつながった。又、北上市療育センターの専門職員に巡回訪問をしてもらい、手だてやアドバイスを頂くことで一人ひとりに寄り添った援助を行うことが出来た。

② 延長保育

新型コロナウイルス感染症予防対策として未満児、以上児に分散しておやつを食べるようとした。また、感染症が収まっているときは一緒におやつを食べ遊んで過ごした。おやつの提供時は必ず成分表を確認した。子ども達が安心して保護者の迎えを待てるよう保育環境を整えた。

延長保育利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月決契約児人数 (前年度)	2 (9)	7 (9)	7 (9)	7 (8)	6 (8)	6 (8)	6 (8)	6 (8)	10 (10)	10 (14)	10 (14)	10 (14)	83 (119)
延べ利用回数	22	104	115	104	77	91	90	89	117	130	146	126	1,211
緊急利用児人数	12	18	10	15	12	10	17	16	12	12	17	12	163
延べ利用回数	43	31	19	32	28	31	78	43	29	15	31	24	404

③ 体調不良児対応型

発熱、消化器症状の利用が多く見られた。症状の状態に合わせて環境を整えたり、安静をとるよう促した。利用の際には、不安を与えないように声をかけ、ゆったりと過ごせるように配慮した。帰宅後の過ごし方を丁寧に伝え、症状の悪化を防ぐとともに休養を取ることができるよう声掛けを行った。

体調不良児利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	30	43	40	57	44	31	35	33	20	20	19	45	417

④ 地域活動事業(世代間交流)

コロナ禍であったが、老人ホーム・デイサービス・グループホームの窓越しから歌を歌ったりお年寄りと触れ合う機会をもち、優しさや思いやりの気持ちを育んだ。老人ホーム等の敬老会にビデオレターを作成し見てもらうことができた。